



第10号

平成19年3月15日 発行

〒673-8588 兵庫県明石市北王子町13-71
TEL/FAX 078-925-9418

デザイン・印刷 株式会社 サラト
〒670-0948 兵庫県姫路市北条宮の町172
tel 079-284-1380 <http://www.salat.co.jp/>



けやき会の皆様へ

兵庫県立看護大学(以後、看護大学)が開学して13年目が終わりに近づきました。今年の学位授与式は、看護大学の歴史のなかでも特別なものになります。といたしますのは、学部と大学院(後期博士課程)の卒業生・修了生が講堂で行う学位授与式の最後になるからです。毎年式の終わりに、恒例として学部生の代表者が大学への記念品として「一、桜」と声を張り上げて、会場の皆が思わず笑ってしまうあの瞬間も最後になります。来年の3月には兵庫県立大学看護学部の第1期生が卒業することになりますが、学位授与は全学的に行われるので、一人ずつ学長から学位記を手渡す最後でもあります。こうして卒業式のことを書いてみると、私が看護大学の学長のとき、全員と握手したときの感触がよみがえってきて、ちょっとセンチメンタリズムに陥りそうです。

皆さんは卒業式のこと、覚えていますか。看護大学で過ごした日々を思い出しますか。卒業してかなり歳月が経過した人も、昨年卒業したばかりの人も私たち教職員にとっては思い出をたくさん残してくれた大切な方々です。看護大学の学部生は今年の卒業生も入ると1,193人、大学院修士課程の修了生は156人、博士課程の修了生は10人となります。合計1,359人です!すばらしいですね。一方、県立大学では看護学修士課程の修了生が48人となります。

この13年を振り返るとさまざまなことが思い出されます。良いこともたくさんありましたが、苦しいこともありました。2年目を終わろうとしたときの阪神淡路大震災の衝撃をはじめ、台風

兵庫県立看護大学・兵庫県立大学 看護学部
副学長 南 裕子



で体育館と講堂が水浸しになって大騒ぎしたこと、噴水のある池を学生が発奮して清掃を始めてくださったのは良かったけど途中で学生も教職員も疲れ果てたこと、定年まじかだった石井誠二教授が突然亡くなられたことなどは悲しみとともに思い出します。でもいつのときも、学生たちが私たちには勇気をくださり、看護大学は未来志向で発展してきたように思います。

3年前には看護大学は神戸商科大学と姫路工業大学と統合して兵庫県立大学になり、学生が他の学部の学生や教員と交わることができるようになりました。4年前には文部科学省から「21世紀COEプログラム」として本学の災害看護学の教育・研究・社会貢献が認められ、世界に発信する大学となりました。2年前には明石キャンパスのなかに地域ケア開発研究所ができました。ずいぶん前から看護大学の卒業生が大学院に進学してくれるようになりましたし、教員として母校に帰ってきてくれるようになりました。兵庫県下だけではなく全国で本学の卒業生や修了生が、とても苦労しながらも素晴らしい仕事をしてきています。このように良いことがたくさんあります。

看護大学と県立大学いずれで学んだ人も、CNAS卒業生として、自信をもって世界に羽ばたいてほしいし、幸せな人生を送って欲しいと願っています。

ご挨拶

同窓会会長 池原 由布子



陽春の候、皆様いかがお過ごしでしょうか。

去る3月に兵庫県立看護大学11期生の卒業式が執り行われました。看護大学卒業生と致しましては、一抹の寂しさを感じますが、母校は兵庫県立大学看護学部として益々の発展を続けていますので、今後はけやき会も他学部の同窓会と共に発展していけたらと考えています。

けやき会会長という大役を引き受けさせていただいて早くも1年半が過ぎました。諸先生方や会員の皆様、けやき会役員のご助力をもちまして、この期間を無事に過ごせましたことに深く感謝しております。

この転換期にあたり、同窓会でも会報を一新いたしました。写真を多く取り入れ、より同窓生の動向や母校の様子を分かりやすく皆様にお届けしていきたいと思っております。同窓会の目的は「会員相互の親睦を図るとともに、会員の進歩と母校の繁栄発展に寄与すること」と会則に記されています。昨年度は会報の発行、櫛まつりでのAED講習会、ナラティブ発表会、南副学長による講演会の企画・運営を主に行っておりました。櫛まつりは初めての開催だったこともあり要領がつかめず、まつりに力を使い果たしてしまった感がありました。今年度

は同窓会の目的を達成すべく、より会員相互の親睦を図る場を提供することが出来るよう、会報、ホームページの活性化を図っていきたく思いますので、皆様、ご協力のほど宜しくお願いいたします。

ホームページは皆様ご覧頂いているでしょうか。私も会長職に就いた事もあり、パソコンに触れる機会が増えました。先日は、とうとうmixiに入りました！そこで多くの卒業生が交流している事を目の当たりにして、若干の悔しさ、羨ましさを感じています。いつか同窓生のパソコンのお気に入り、けやき会ホームページが追加される日が来るよう頑張りたいと思います。

他にも同窓会へのアドバイス等ございましたら、事務局までお寄せ下さい。私も含め、三十路を迎え、もう若くないと嘆いている会員の方もおられると思います。いえ、まだまだ三十路です！皆様の益々のご活躍とご健康をお祈りして挨拶とさせていただきます。



AED講習会



南先生による「世界における看護活動を語る」

櫛祭り

(平成18年6月11日 開催)

けやき会は、「AED講習会」、「卒業生看護体験を語る会」、「南先生による『世界における看護活動を語る』」を企画運営致しました。当日は晴天に恵まれ、屋外で行ったAED講習会では明石市消防署の御協力もあり、4体の蘇生訓練用の人形を用意する事ができ、デモンストレーションでは様々な年代の多くの方々に集まっていただきました。

「卒業生看護体験を語る」では、看護師、保健師、がん看護専門看護師の3名の方に体験を語っていただきました。コメンテーターとして南先生、片田先生をお迎えして、意見交換を行いました。あらためて看護っていいものだなと振り返る良い時間になったと思います。南先生の「世界における看護活動を語る」では、世界の子供達の状況や看護の活動を知る時間となりました。地域の方々への参加も多く、盛況のうちに終了致しました。

みなさんも来年度はぜひ櫛まつりに足を運んでみて下さいね。お待ちしております。

ちなみに来年度の櫛まつりは、平成19年5月13日(日)です。勤務希望はお早めに…。

皇太子殿下の明石キャンパス御視察



平成18年8月9日に、のじぎく兵庫国体への御出席に際して、前日に皇太子殿下が災害看護実習を御視察に来られました。「大規模災害トリアージシミュレーション演習」と「AEDや心臓マッサージ、人工呼吸による心肺蘇生の実習」が実習室Aで行なわれ、皇太子殿下は熱心に質問をされていました。



片田学部長と挨拶をされる
皇太子殿下



AEDや心臓マッサージ・人工呼吸による心肺蘇生の実習（学部生）



大規模災害トリアージシミュレーション実習
（大学院生）

活躍する卒業生

卒業生の皆さんいかがお過ごしですか？卒業生がどんな仕事をしているか気になりませんか？今回けやき会では“病院巡り”と題して様々な病院、卒業生の活躍を紹介していきたいと思います。まずトップバッターは、母校の隣に位置する成人病センターからです。昨年4月から電子カルテやオーダーリングシステムが導入され、またがん拠点病院として整備が進んでおり改革の年になる予感？です！



10期生の福島です。

看護師免許を取ってから1年にも満たないひよっこナースです。緊張しながら成人病センターで勤務し始めてからもうすぐ1年。職場の魅力を語るにはまだまだ経験が浅いですが、新米の1年間で感じたことを紹介します。

成人病センターの魅力を考えて、①母校が隣にあること、②隔週で土日が休みなこと、③電子カルテがあることの3つが思い浮かびます。

①は、いつでもすぐに大学に行けることですごく助かっています。調べ物があれば図書館へ、落ち込んだり悩んだりしたら先生や後輩のところへ・・・思い立ったらすぐに母校を訪ねることができます。あの長いケヤキ並木を通るだけで在学していた頃を思い出して初心に帰ったり元気が出たりします。新しい雑誌なんかも、図書館に行けばすぐに読めるからすごく助かっています。

②は、隔週で土日が休みなので、予定が組みやすく助かっています。不定休の仕事とはいえ、隔週で週末に連休があると思うと、すごく安心です。長期連休の休暇希望はなかなか出しにくいそうですが、先輩Nsが土日の週休と合わせて休暇希望をだして3連休や4連休にして旅行の計画を立てていたり、定休があるとリフレッシュもしやすそうです。

③は、電子カルテ導入から1年程らしいですが、受け持ち患者さんの経過表を一気に入力できたり、1つの画面からのクリックで患者さんの情報収集ができたり・・・入職した時から電子カルテなので比較はできませんが、すごくやりやすいように思います。機械だからその扱いにくさも多々ありますし、まだまだ紙カルテとの併用なので面倒くささもありますが、記録に関してはしやすいように思います。

まだ私自身が職場に慣れている最中なので、むしろ紹介をして欲しいくらいの心境なんですけど、出来る限りで紹介させていただきます。

6期生の松尾順子です。

就職当初より兵庫県立成人病センターに勤務して5年目になります。

ここ成人病センターは大学（兵庫県立大学明石キャンパス）の隣にあり、実習に来られた方も多く皆さんの記憶に残っている景色のひとつではないでしょうか。

病床数は400床で兵庫県下のがん専門病院としての役割を担っていると認識していますが、全国で秋田県とともにようやく2007年1月に厚生労働省が地域の中心として整備する「がん診療連携拠点病院」に指定される運びとなったようです。とは言うものの、まだまだシステムの整備や連携は途上段階だと感じます。病棟看護師としては、患者・家族の方ができるだけ自立できる方法を考えたり、思いを込めて看護情報提供書を書いたりしますが、できることは少ないなあ～と感じつつ、それでもひとつひとつの関わりがこれからの環境を作っていくのだと奮起しています。

日本のがん医療を取り巻く現状なんてこと考えると果てしなく道のりは遠く、無力感にさいなまれますが、目の前の患者の訴えに真摯に向き合うということを忘れずに日々の看護を実践して行きたいと思っています。単純なようで、大事なことを見落とすことがないように。

兵庫県立成人病センター 看護部 伊藤由美子

2004年3月に大学院（修士課程がん看護学専攻）を修了し、兵庫県立成人病センターに就職した伊藤です。みなさまお元気ですか？

私の就職した成人病センターは、がん医療における兵庫県下の基幹病院として高度専門医療をめざしている施設で、2006年12月には無事、『がん診療連携拠点病院』の指定をいただきました。就職した2004年頃は悪性疾患でない患者さんも加療されていましたが、昨年の眼科、代謝内科の廃止を受けて、現在では当院にかかる方のほとんどががん患者さんとなりました。

私は、就職当時からがん看護専門看護師（OCNS）として勤めています。「CNSって聞いたことはあるけど、実際はどんな仕事をしているの？」とよく聞かれます。全国にいるCNSの働き方は多種多様ですが、私たちはフリーポジション、つまり病棟に所属しないでがん看護の高い専門性が求められる時・場所・対象者・ニーズが現れたときにそこへ赴き、役割を果たすという働き方をしています。いわば、院内のすべての場所が仕事場所であり、あらゆる病期の患者さんやご家族がケアの対象者となります。

具体的な仕事内容をご紹介しますと、痛みや吐き気などががんやがんの治療によって起こる諸症状への対処法を検討したり、揺れる気持ちや変化した生活との付き合い方、治療選択で迷う時や緩和医療を受けたい時の相談など、患者さんやご家族ががんを診断を受け、それぞれの治療を受ける過程で直面する様々な問題に対して解決できるよう援助を行っています。これらの相談に対して、CNSが直接対応する場合もあれば、スタッフNsを支援あるいは共同実施という形であたっていきます。

また、患者さんやご家族の良きサポーターとしてだけでなく、チーム医療の中でも、看護スタッフや医師をはじめとした多職種間の中で、患者さんにとって最良の医療が提供できるように他職種間を調整したり、看護スタッフを中心に教育を行ったり、相談を受けたり、臨床研究や院外の専門家とネットワークを構築し地域連携を育むことにも取り組んでいます。なお、当院には私を含めて2名のがん看護専門看護師が活動しています。

4期生の吉田です。

看護大を卒業し、最初の3年は東京の小さな民間病院でさまざまな経験をし、その後成人病センターに就職しました。

成人病センターでは、血液、消化器、腫瘍内科という3科混合の内科病棟に勤務し、ことし看護師8年目を迎えます。成人病センターは「がん専門病院」としてその役割を果たすべく、様々な面で改革が進んでいるところです。看護の面では、現在3名のがん看護CNSが活躍中です。研修などの教育の場や、患者様への看護で行き詰まった時、しばしばこのCNSさんたちと関わる機会がありますが、その知識の深さや問題への対応能力の高さ、人間としての魅力にふれ、「こんな存在を目指すのも一つの道だなぁ」と考えたりします。

私たちは、卒業してからも年に1～2回、ワイワイとお酒を交えて同窓会をしています。卒業して早や7年、肩書きがついてくる人、自分の進む専門性を見つけた人、母校に戻り後輩を育てている人、ガラリと転職を遂げた人、子育てママやマスオさんとして頑張ってる人など、「変わってないねー」と言いつつも、みんなどんどん変わっていきます。年齢もちょうど、人生の大きな転換期に当たる私たちの年代、それぞれが、それぞれの場所で自分たちの力を発揮して頑張っている便りを聞くと、私も刺激を受け、元気をもらっています。

私は学生の頃から、「看護は特別なものではなく、身近に、日常のどこにでも転がっているもの」と、何となく思っていました。卒業したらいろんな経験を積んで、その「何となく」を、何かのしっかりした形にしていきたいと思い、

今年8年目を迎えますが、やはりもう少し修行を積まないといけないようです。プライベートでもいろんな変化が起こってきますが、いつも看護を身近に、大切に考えながら頑張っていきたいと思っています。

平成19年3月で退職される先生方から メッセージをいただきました。

お世話になりました。
これからもよろしく願います。

井伊 久美子 先生



兵庫県立看護大学の開学以来14年間お世話になりました。

新しい大学のスタートは私の教員としてのスタートでもありました。また14年目にして兵庫県立看護大学生の最後の卒業と同時に教員を終わるのは、偶然のことですが、私にとっては誠に意義深いことになりました。

この間は、毎年新しい経験の連続で、私は看護大学大学院博士課程の修了生でもあるのですが、教員としても学生としても、他に代え難い濃密な時間を過ごさせていただきました。

大学にも学生、卒業生の皆様にも、心から感謝申し上げます。ありがとうございます。

保健師はフットワークが命とばかりに、実習だ研修だと兵庫県内を駆け回った思い出がよぎり、名残惜しい限りです。

大学を去るとはいえ、看護専門職として、仕事は続けて参ります。むしろこれからの方が皆様に深く関わる機会に恵まれるかもしれません。看護大でいただいた経験を持って、微力ではありますが、看護に貢献して参りたいと思っています。

これからもよろしく願います。

刺激の矢をくぐり抜けて

勝田 仁美 先生

開学以来、早14年が経過した。何かを思い出そうとしてもいろいろあり過ぎて・・・しかしその一つ一つが自分の大切な力になり契機になりステップになっている。開学当初の若かりし助手時代、学内で交わされる看護に絡む刺激の矢がバンバン飛んできると感じを持ったことを今思い出した。その矢を受けていく中で、まわりの関東弁の議論活発な先生方の意見と言えどもそんなに何でもかんでも受け入れられず、変や！と思って自分なりの判断で振りきってみたり、これまでの自分の考えと合致し、そうなのよ！というものはさらに自分の考え方を固めたり、え？そうなの！？でも・・・と驚きを持ってざりと捨てきれずニュートラル領域に取りあえず放りこんでおいたりした。振り分けないでいると自分がアップアップしてしまうからだ。しかし、すぐさまニュートラルなものばかりが増えすぎて処理しきれない事態となった。持ち前の「まあ、いいか、そのうち何とかなるだろう」と思いながら行くうちに、矢も、槍のようではなく羽が美しかったりするように見えてきた。今は、刺激の矢がどうも好きになってしまったらしい。学生の皆さんも卒業生の皆さんもさまざまな刺激の矢をいっぱい享受しながら歩んでほしい。私も新天地で刺激の矢を放てたらいいと思う。これまで私を育ててくださった先生方、学生の皆様、ありがとうございました・・・。

キャリア・トランジションに思う

勝原 裕美子 先生

私が教えてきた看護管理学という学問領域は、看護を取り巻く環境や仕組みがどのようなであれば、看護者が生き生きと働くことができるのか、また国民が望ましい医療・看護を受けることができるかを考えていくところです。一人ひとりの看護者が、環境や仕組みに対して不平・不満を抱くことはあっても、それに文句を言うだけでなく、その本質を探り、変革していく力を持つてほしいと願って教育・研究を行ってきました。その充実感があります。

しかし、決してあつという間の13年間ではありませんでした。とても大変でしんどい日々でした。でも、大変でしんどかったからこそ、そこからの学びを次にどう活かせばよいのかをポジティブに考えられるようになったと思います。4月から臨床で管理職に就きます。看護を取り巻く環境や仕組みを整備していくという私のライフワークは、働く場所が変わっても変わりません。むしろその感覚は年齢を重ねるごとに強くなってきている気がします。CNASでインプットされたことが、今後多方面でアウトプットしていくことを楽しみに、皆様方に最大級の感謝をお伝えしたいと思います。ありがとうございました。

恩師は



この6年・・・

玉木 敦子 先生

この大学に教員として赴任してから6年が経とうとしています。ずっと走ってきたような印象ですが、あらためてふり返ると、このキャンパスで体験したさまざまな場面が思い出されます。特に印象深いのは、実習などを通して、多くの学生さんの体験に触れたことです。時には涙を流しながら真剣に語る姿から、私自身たくさんのことを学びました。悩み、葛藤し、それでも懸命に取り組むことで、人はこんなにも成長するのだなあと何度も実感させてもらえました。体験を通して、「一人一人が持つ力」の大きさや可能性を知り得たことで、より一層自分や相手の力を信じているようになったと思います。看護師として人に関わる時、また自分が生きる上でも、そのことが私を支えてくれるように感じています。

ここまで書いてみて、この大学に来て、そして学生の皆さんに出会って、本当に幸せだったなあとしみじみ思います。私の中にあるたくさんの思い出を力に、これからの人生も誠実に生き、また楽しんでいきたいと思っています。皆さん、本当にありがとうございました。

小迫幸恵先生

平成10年から、編入生、大学院生として、平成14年からは教員として、計9年間このキャンパスで育てていただきました。明石に来た頃は関西文化へのカルチャーショックに加え、中々目的地にたどり着けない校舎の中で迷子になりながら、毎日オロオロしていたことを思い出します。しかしこの9年間で、多くの方のお陰でたくさんの貴重な財産を得ることができました。

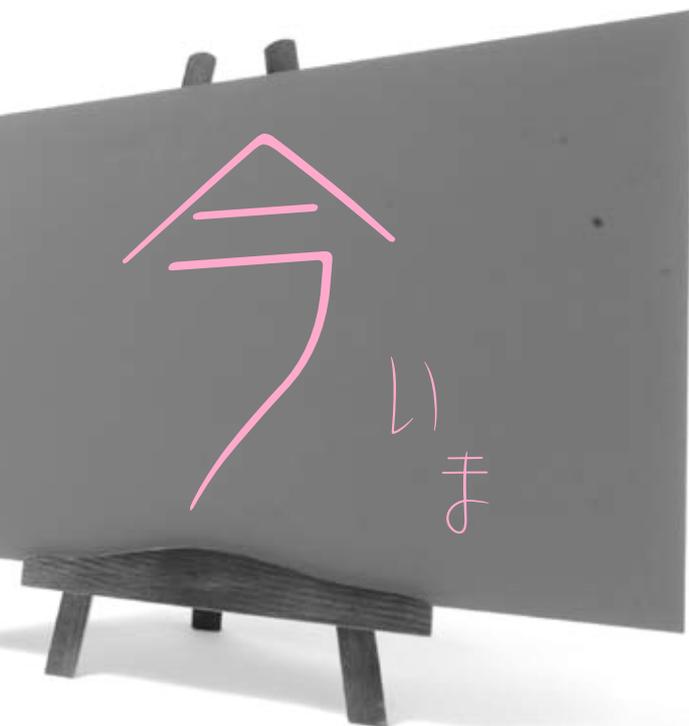
4月からは明石を離れますが、母校のさらなる発展を心よりお祈りしています。

岡田和美先生

早いもので、こちらの助手として赴任してから4年が過ぎました。この春卒業される最後の兵庫県立看護大学卒業生の皆さんとともに、ここから旅立つことになりました。長期実習、短期実習、インパクト実習Ⅰ・Ⅱ、そして出会い実習では、みなさんと一緒に私自身も様々な勉強をさせていただく機会となり、とても感謝しております。今後も小児看護学に携わる仕事を続けていきたいと考えています。今後も、けやき会の皆様のご活躍をお祈りしております。

中山 亜由美先生

母性看護学の助手として赴任し、3年間お世話になりました。学生とともに看護の現象を丁寧に見て学び、共同研究で看護の研究に携わるなど、大学での仕事は盛りだくさんで難しくもありましたが、看護の現場を臨床で働いていた時とはまた違った視点で見られるようになるなど、臨床では得られない学びが数多くありました。大学には何かとご縁があり、4月からは大学院修士課程の学生として引き続きお世話になります。また新たな気持ちで看護を学ぶことに期待しています。



ありがとうございました。

原田 奈津子先生 (学部4期生)

精神看護講座助手として、3年間お世話になりました。

学生時代にぼんやりと過ごしながらかけていた4年間の学びを、助手としてもう一度味わうことができ、大変貴重な時間となりました。実習等で関わった卒業生の皆様、本当にありがとうございました。

学生時代の体験と学び、臨床での経験、そして助手としての3年間の経験、この積み重ねてきた時間とそこにある体験や学びを糧に、退職後は学生に戻り、さらに看護の学びを深めてゆこうと思っています。このような決断に至るまでにサポートいただいた先生方にも感謝の気持ちで一杯です。本当にありがとうございました。



~変わり行くものと変わらないもの~

高見美保先生

私は修士学生+助手として7年間を本学で過ごしました。その間、学生から教員へと立場は変わり、大学も兵庫県立看護大学から兵庫県立大学へと変わりました。そして、4月からは本学の博士課程に進学し、再び教員から学生に変わろうとしています。でも、どうやら“学ぶ場所”は変わらないようです(笑)。

人生「変わり行く」ものばかりではなく、「変わらないもの」もあるのでしょうか。「変わらない、何か確かなもの」を探し、また歩きだすつもりです。



北村のぞみ先生

短い期間ではありましたが、こちらで勤務させていただいたことを深く感謝いたしております。演習や実習に携わる中で、自分の看護を振り返る機会を得ることができました。また、学生の皆さんから教わることも多くありました。初心を忘れず、自分の歩幅で看護と向き合うことができればと思っております。今後もけやき会の皆様のご活躍をお祈りしております。

先生方からは、授業、実習、演習等を通じて多くのことを学ばせていただきました。本当にありがとうございました。先生方の今後の益々のご活躍を心よりお祈り申し上げます。

兵庫県立看護大学同窓会 けやき会 平成 17 年度決算書

収入の部			
費目	平成 17 年度決算額	備考	
会費			
'96 年度 学部卒	¥8,000	1 人×¥8,000	
'97 年度 学部卒			
'98 年度 学部卒	¥10,000	1 人×¥10,000	
修士卒			
'99 年度 学部卒			
修士卒			
'00 年度 学部卒			
修士卒			
'01 年度 学部卒	¥10,000	1 人×¥10,000	
修士卒			
博士卒			
'02 年度 学部卒			
修士卒			
博士卒			
'03 年度 学部卒			
修士卒			
博士卒			
'04 年度 学部卒			
修士卒			
博士卒			
'05 年度 学部卒	¥700,000	70 人×¥10,000	
修士卒	¥170,000	17 人×¥10,000	
博士卒			
雑収入 (利子)	¥231		
前年度繰越金	¥5,563,034		
収入合計	¥6,461,265		

支出の部			平成 18 年 9 月 12 日
費目	平成 17 年度決算額	備考	
I ホームページ			
年間管理費	¥10,605		
運用費	¥103,320		
II 樺まつり			
消耗品費	¥31,221		
講師謝金	¥39,450		
講師交通費	¥4,440		
III 事務			
消耗品費	¥257		
雑費 (印字サービス)	¥700		
通信費	¥166,045		
IV 総会			
消耗品費	¥16,899		
講師謝金	¥36,500		
支出合計	¥409,437		

平成 17 年度決算残高	収入総計	¥6,461,265
	支出総計	¥409,437
	差引残高総計	¥6,051,828

平成 17 年度決算報告について監査を行い、以上相違有りません。

監査 西尾理津子
木村由佳里

けやき会からの案内



第 10 回 けやき会総会

詳細は HP をみて下さい。

会報作成を終えて

今回より、(株)サラトに会報のお手伝いをさせていただいております。今後もけやき会の皆様の声が反映された会報にしたいと考えておりますため、ご意見・ご感想等ありましたらホームページまでとどんどん願いたします。(会員用ページのパスワード: keyaki/kango)
最後になりましたが、会報を作成するにあたり、ご協力いただきました方々に心より感謝いたします。ありがとうございました。

けやき会 庶務 茅野・木村

ICN 学術集会 IN YOKOHAMA 2007.5.27 (日) ~ 6.1 (金)

国際看護師協会 (International Council of Nurses/ICN) は、各国の看護師協会から成る組織で、125 もの国の看護師を代表しています。国際的な保健医療専門職団体として、1899 年に世界で初めて設立された最大の組織です。現在南副学長が会長を勤めておられます。今回は日本で学術集会が行われることとなりました。詳しくは日本看護師協会ホームページでご確認下さい。

そこで皆さんにお願いがあります。学術集会におけるボランティアを看護学部から多く募りたいのですが、長期間に及ぶ東京ステイは多額の費用がかかるため、学生の宿泊先が不足しています。どなたか学生に宿泊先を提供して下さる方はおられませんでしょうか。母校のためにご協力の程、宜しくお願いいたします。お問い合わせは info2@keyaki-kai.com けやき会事務局までお願いいたします。

関東支部立ち上げについて

以前よりお知らせしていましたが関東支部立ち上げについてです。関東在住の商科大学、姫路工業大学 OB・OG の方との懇親会の様子はけやき会ホームページの方でご覧下さい。関東支部立ち上げに向けて動いておりましたが、今のところどれだけの方に協力していただけるかが分かりません。そこでまず、関東周辺に在住の方と支部の必要性やあり方について 6/1 (金) 19 時より意見交換の場を設けたいと思っています。関東周辺在住の方に返信はがきをお配りしていますので参加の有無をお知らせ下さい。場所につきましては参加人数が分かり次第設定して、ホームページにてお知らせいたします。

第 2 回 樺まつり

平成 19 年 5 月 13 日 (日) 10 ~ 15 時
テーマ「地域に広げよう 看護の力を」
今年度も南先生の講演会を企画しています。他にも足浴、アロママッサージ、まちの保健室、模擬店、フリーマーケット、バザー、ちびっこ広場、献血、セネガルのお菓子、長田先生の似顔絵コーナーなど行う予定にしています。ぜひお立ち寄り下さい。

名称変更について

平成 19 年 4 月 1 日より、兵庫県立大学看護学部同窓会けやき会 (旧称: 兵庫県立看護大学同窓会けやき会) に名称が変更になります。

役員紹介



会計 寺下 久美子 (5 期生)
会長 池原(及川)由布子 (3 期生)
庶務 木村(角野)由佳里 (3 期生)



書記 金子 友美 (6 期生)
副会長 都 (8 期生)
副会長 酒井 直美 (7 期生)
書記 林 (5 期生)
庶務 茅野 友宣 (4 期生)
会計 青木 恵美 (7 期生)